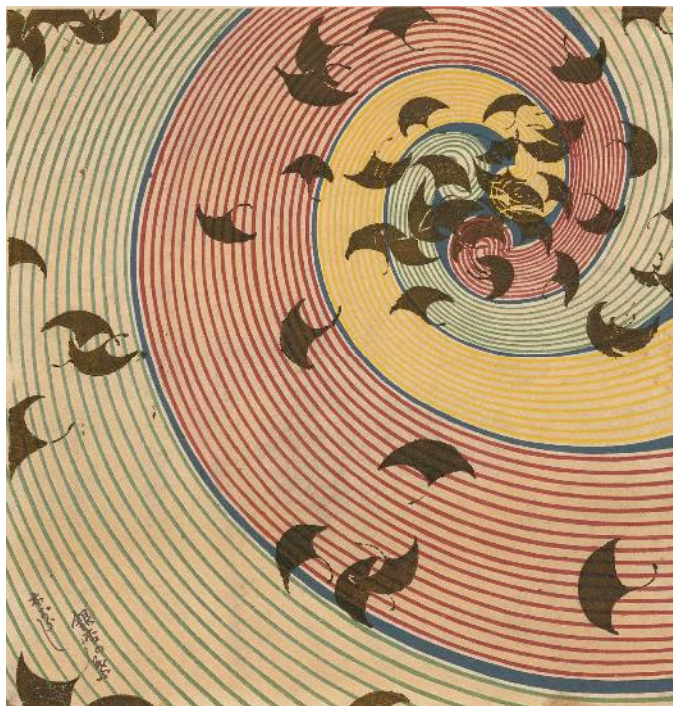




①津田青楓『うづら衣』(山田芸艸堂)より、明治36(1903)年、スコット・ジョンソン氏蔵

©Rieko Takahashi

# 津田青楓 図案と、 時代と、

Tsuda Seifū —the designs, the time and...

2022年6月18日(土)～8月14日(日)

前期:6月18日(土)～7月18日(月・祝)

後期:7月20日(水)～8月14日(日)

※会期中、一部展示替えあります

## ◆ 展覧会概要

工芸品の下絵として捉えられがちな「図案」。しかし明治から大正時代は「図案」は必ずしも何かに応用されるために描かれるのではなく、また「絵画」とも異なるものとして存在するようになった時代でした。

明治時代、ヨーロッパの美術やデザインが日本でも広く知られるようになると、それまでの伝統的な図案から脱却し、独自の創意をもって考案しようという機運が高まりました。職人の仕事とされていた図案制作に画家も携わるようになり、その芸術化が試みられた、いわば図案の変革期だったのです。

本展は、明治30年代に京都で多くの図案集を出版し、大正時代には夏目漱石らの本の装幀も手がけた津田青楓(1880-1978)を軸に、図案集と図案に関する作品を紹介します。青楓は、明治13(1880)年に京都に生まれました。明治から大正、昭和時代と目まぐるしく変化する社会の中で、日本画、洋画、工芸、書など幅広い分野で活躍しました。明治37(1904)年には、青楓自身も図案の研究会を結成し、日本画の師である谷口香嶠や、当時、京都に新たな美術やデザインをもたらした洋画家の浅井忠を顧問に迎えて雑誌の刊行も行っていました。前年に刊行した図案集『うづら衣』では「自己は自己の図案をつくらねばならん」と制作にかける意気込みを語っています。



③津田青楓『描更紗鶴図衝立』、大正5(1916)年頃、笛吹市青楓美術館蔵 ©Rieko Takahashi

新しく流入した文化や流行のもと、自分でも何かやりたい・やらなければという強いエネルギーに満ちた時代でもありました。それまでの形にとらわれない図案は現代の私たちの目にも新鮮に映ることでしょう。津田青楓の作品を通し、職人の仕事から美術家の作品へと昇華された「図案」の世界をお楽しみください。



②津田青楓『うづら衣』2巻(山田芸艸堂)より

明治36(1903)年

スコット・ジョンソン氏蔵

©Rieko Takahashi



渋谷区立 松濤美術館  
THE SHOTO MUSEUM OF ART



## ◆ 展覧会構成

### 第1章：青楓図案万華鏡

本展では、まず明治30年代に本田雲錦堂や山田芸艸堂から刊行した図案集をはじめ、大正時代に手掛けた本の装幀、刺繍など、明治から大正時代に至るまでの図案の仕事、日本画と洋画もあわせて一堂にご紹介します。

#### 図案集



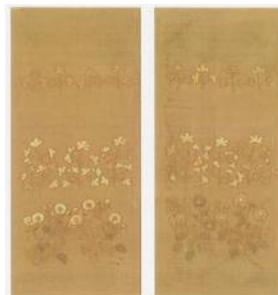
④『青もみち』3巻(本田雲錦堂)より  
明治33(1900)年、個人蔵



⑤『染織図案』(山田芸艸堂)より  
明治37(1904)年、芸艸堂蔵



⑥『ナツ艸』(山田芸艸堂)より  
明治37(1904)年、個人蔵



#### 刺繍

右⑩《フランス刺繍(A)》  
左⑪《フランス刺繍(B)》  
大正3(1914)年  
笛吹市青楓美術館蔵



⑦「戦地図案其二(高粱中のアタタ車)」  
『小美術図譜』(山田芸艸堂)より  
明治37(1904)年、芸艸堂蔵

#### 装幀図案



⑧鈴木三重吉『櫛』(春陽堂)  
大正2(1913)年、笛吹市青楓美術館蔵



⑨夏目漱石『明暗』(岩波書店)  
大正6(1917)年(6版、初版同年)、山田俊幸氏蔵

#### 日本画・洋画



右⑫《櫛図》大正4(1915)年、絹本着彩  
左⑬《花鳥図》制作年不詳、油彩、キャンパス  
笛吹市青楓美術館蔵

第1章は全て津田青楓または装幀  
©Rieko Takahashi

「津田にとっては、かきたい時にかきたい事をかきたい様にかいてみえれば、それが日本画になってみえやうが西洋画になってみえやうが、画になってみえやうが図案になってみえやうが、そんな事はいつでも可い事なのである。」 小宮豊隆「序」津田青楓『装幀図案集 第一輯』芸艸堂、大正4(1929)年

### 第2章：青楓と京都図案

京都は、長らく工芸の生産と消費、双方の中心地でした。しかし幕末の開国と明治維新の動乱、そして東京遷都によって京都の工芸界は大きな打撃を受けることとなりました。それからの立ち直りを図って力を注いだのが、産業や工芸の近代化でした。

明治11(1878)年頃、京友禅の呉服店・千總の主人、西村總左衛門が、白地のビロードに模様を染めるビロード友禅を開発し、写実的で立体的な絵画的表現を可能にしました。はじめ、岸竹堂や今尾景年ら日本画家が下絵を依頼され、それが好評だったことから、他の画家たちも続くようになりました。それまで職人の仕事とされてきた図案制作が、明治中期には、画家が積極的に携わる仕事に変化していったのです。

本章では、千總に残る岸竹堂や今尾景年らの下絵を元にした友禅裂、青楓の師・谷口香嶠や、当時人気だった神坂雪佳の図案、京都に新しい風を吹き込んだ浅井忠の図案やアール・ヌーヴォーの影響など、青楓の図案制作の背景に迫ります。また、これまで紹介される機会の少なかった、同時代の図案集もご紹介します。



⑭岸竹堂(下絵)  
《縮緬地波に雲龍文様型友禅染裂》  
明治12(1879)年、株式会社千總蔵



⑮谷口香嶠『光琳画譜』(田中治兵衛)より  
明治24(1891)年、個人蔵



⑯浅井忠(図案)杉林古香(制作)  
《遊魚菓子器》明治42(1909)年  
佐倉市立美術館蔵



⑰下村玉廣『しき錦』(本田雲錦堂)より  
明治36(1903)年、鬼灯書房蔵



⑱古谷紅麟『はな浅』(合名会社芸艸堂)より  
明治39(1906)年、芸艸堂蔵

### 第3章：青楓と新しい試み

青楓は明治40（1907）年に農商務省海外実業練習生としてパリに留学し、アカデミー・ジュリアンで、歴史画家のジャン＝ポール・ローランに学びます。3年後に帰国した青楓は、学んできた洋画を描くかわら、新しい表現に挑戦しました。

当時、文部省美術展覧会（文展）のような官設の大展覧会向けの絵画ではなく、芸術はもっと現代社会に関わりをもつべきであるという考えのもと、文展には出品できる部門がない手工芸の品々、生活を彩る「小芸術」（マイナーアート）への注目が高まっていました。それは、作り手の個性や、素人（アマチュア）らしい自由な創造に重きをおき、個人的な「趣味」に働きかけるものでした。

パリで本格的な洋画を学んできたとは思えない素朴な表現は意外に映るかもしれませんが、これは同時期の留学生をはじめとする、30代前後の美術家たちに共通した傾向であり、新進の彼らによる古きを脱しようとする新たな試みだったのです。



①津田青楓（挿絵）  
高濱清（虚子）『さしあ』(光華堂)より  
明治44(1911)年  
新宿区立漱石山房記念館蔵



②津田青楓（装幀）、夏目漱石『草合』（縮刷）(春陽堂)  
大正12(1923)年(25版、初版：大正6年)  
山田俊幸氏蔵



③富本憲吉（表紙）  
田中喜作編『卓上』  
大正3(1914)年、山田俊幸氏蔵



④藤井達吉『半衿』大正時代  
京都国立近代美術館蔵

### ◆会期中イベント

#### ①記念トークイベント「津田青楓・富本憲吉・藤井達吉の時代」

講師：山田俊幸氏（大正イマジュリィ学会常任委員）

6月26日（日）午後2時～（約1時間30分）地下2階ホール

＊無料（要入館料）＊定員30名（申込み先着順）＊事前申込みが必要です。

＊往復ハガキは「①6/26トーク係」まで。6/22(水)必着

#### ②特別イベント「木版摺りの実演」

津田青楓が図案集を出版していた芸艸堂の協力により、明治時代の版木を使用した実演をご覧ください。終了後は簡単な摺り体験もできます。

7月10日（日）午後2時～（約1時間30分）地下2階ホール

講師：森光美智子氏（浮世絵木版画彫摺技術保存協会会員）

井上孝一氏（美術書出版株式会社芸艸堂）

＊無料（要入館料）＊定員15名（申込み先着順）

＊事前申込みが必要です。

＊往復ハガキは「②7/10実演」係まで。7/6(水)必着

#### ③特別講座「津田青楓の図案の世界」

講師：大平奈緒子（本展担当芸員）

7月17日（日）午後2時～（約1時間）地下2階ホール

＊無料（要入館料）＊定員30名（申込み先着順）

＊事前申込みが必要です。

＊往復ハガキは「③7/17講座」係まで7/13(水)必着

#### ○学芸員によるギャラリートーク

7月1日（金）、7月9日（土）、24日（日）

各日午後2時～（約30分）

＊無料（要入館料）

＊事前申込みの必要はありません（土・日曜日は要入館予約）

#### ◎事前申込方法◎

##### ①記念トーク・②特別イベント・③特別講座

往復はがき、または当館ホームページの日時指定予約サイトにて承ります。1通または1回のお申込みにつき1名のみ申込可。

【往復はがき】〒・住所・氏名・日中連絡のつく電話番号、希望のイベント名をご記入の上、各イベント係まで。

【予約サイト】当館ホームページの日時指定サイトのカレンダーから、各イベントを選んでお申込みください。各イベントの20日前0：00から受付開始。迷惑メール等の受信制限をされている方は、事前に予約完了メール「@airrsv.net」と「@shoto-museum.jp」が受信できるようにドメイン設定をお願いします。

※会期や開館時間、イベント等変更する場合があります。最新情報は当館ホームページ等でご確認ください。

※本展会期中は、毎週金曜日の夜間開館及び館内建築ツアーは中止いたします。



## ◆開催概要

**展覧会名** 津田青楓 図案と、時代と、  
Tsuda Seifū – the designs, the time and...

**会期** 2022年6月18日(土)～8月14日(日)  
前期:6月18日(土)～7月18日(月・祝)  
後期:7月20日(水)～8月14日(日)  
※会期中、一部展示替えがあります

**開館時間** 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

**入館料** 一般800円(640円)、大学生640円(510円)、高校生・60歳以上400円(320円)、  
小中学生100円(80円)  
\*( )内は渋谷区民の入館料 \*土・日曜日、祝休日及び夏休み期間は小中学生無料  
\*毎週金曜日は渋谷区民無料 \*障がい者及び付添の方1名は無料

**休館日** 月曜日(ただし7月18日は開館)、7月19日(火)、8月12日(金)

**主催** 渋谷区立松濤美術館

**会場** 渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14  
電話: 03-3465-9421 <https://shoto-museum.jp>

### 土日祝日・最終週は「日時指定予約制」

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、土・日曜日、祝休日及び8月9日(火)以降の最終週は「日時指定予約制」を予定しております。

詳細は当館ホームページでお知らせいたします。  
お出掛けの際は、最新の情報をご確認ください。

### リピーター割引

観覧日翌日以降の本展期間中、有料の入館券の半券と引き換えに、通常料金から2割引きでご入館できます。

\*\*\*会期・時間・イベント・入館方法等、変更の可能性があります。最新の情報は当館HP等でご確認ください\*\*\*

## 交通案内

- 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分
  - JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分
- ※駐車場はございません。



## ◇次回展のご案内

「装いの力ー異性装の日本史」  
2022年9月3日(土)～10月30日(日)

## 報道関係のお問い合わせ

広報担当 西・木原・野城(pr-sma@shoto-museum.jp)

展覧会担当:大平(ohira@shoto-museum.jp)  
木原(kihara@shoto-museum.jp)

電話: 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

- \* 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。チラシの画像もご使用いただけます。
- \* 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- \* 画像のご利用後、データは破棄してください。
- \* 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
- \* 掲載後、見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。